

# 4-5 坂のまち今熊野の防災まちづくりの体制・役割

## 一人ひとり

住民の皆さんは、一人ひとりが防災意識の向上を図るとともに、防災まちづくり活動に積極的に参加するなど、活動の担い手となります。

参加

### 「防災まちづくり」への参加・協力

- ・学区の取組や地域活動への参加、協力

※「単発的な協力ならできる」という住民の協力も世代を問わず募り、交流や学びの機会づくりにも力を入れます。

できる範囲  
でお手伝い

## 町単位

ブロック長や町内の防災部長・副部長は、①地域の防災活動のリーダーの役割、②地域住民の防災まちづくりに関する声を学区や行政等へつなげる架け橋の役割を担います。

### 「防災まちづくり」に関する町内での参加、協力の働きかけ

- ・町内住民への活動参加の働きかけ
- ・町内での、防災まちづくりに関する情報の発信

## 学区単位

今熊野学区では、自主防災会が学区全体の防災まちづくり活動の主体となります。自治連合会や地域の各種組織をはじめ、行政や専門家等との連携により、少しでも安心して暮らせるまちづくりを進める役割を担います。

### 「防災まちづくり」の意識・機運づくり

- ・学区全体の啓発
- ・学区住民が集まれる機会づくり
- ・防災まちづくりに関する情報の発信

### 自治連合会

町内会

各種団体等

適宜連携！

行政や支援機関等は、地域が主体となる防災まちづくり活動に対して支援します。また、地域からの情報による、防災まちづくりの整備の検討など、具体的な取組に対して適宜支援を行います。

学区が広く、地域特性も多様な今熊野学区では、住民一人ひとりの参加と協力が必要です。まずは地域のことや自分の役割を理解し、できることに取り組んでいきましょう。一方で防災上の不安や課題がある場合は、個人で抱え込みます、周囲の人々、町や学区に適宜協力を求めていきましょう。学区として、住民同士や各種団体等と協力し合える環境づくりを行っていきます。



ひと



いえ・みち・まち

## 日頃からの防災意識や 住民同士の情報交流

- ・自分の身の回りの点検
- ・自分の町や住民の状況把握
- ・身近な人との情報共有やコミュニケーション

## 身の回りの 安全対策の実践

- ・自分の身の回りの適正な管理
- ・危険箇所の改善や整備

## 町内の連携 近隣町、学区との連携

- ・町内の連携（町内会長、組長との連携）
- ・近隣町との連携（近隣の町内会長、ブロック長との連携）
- ・学区との、地域状況の共有

## 町内住民に対する 「防災まちづくり」の取組サポート

- ・町内の点検、状況の把握
- ・町内住民の不安や課題意識の把握と助言
- ・危険箇所の改善、整備の際の調整やサポート

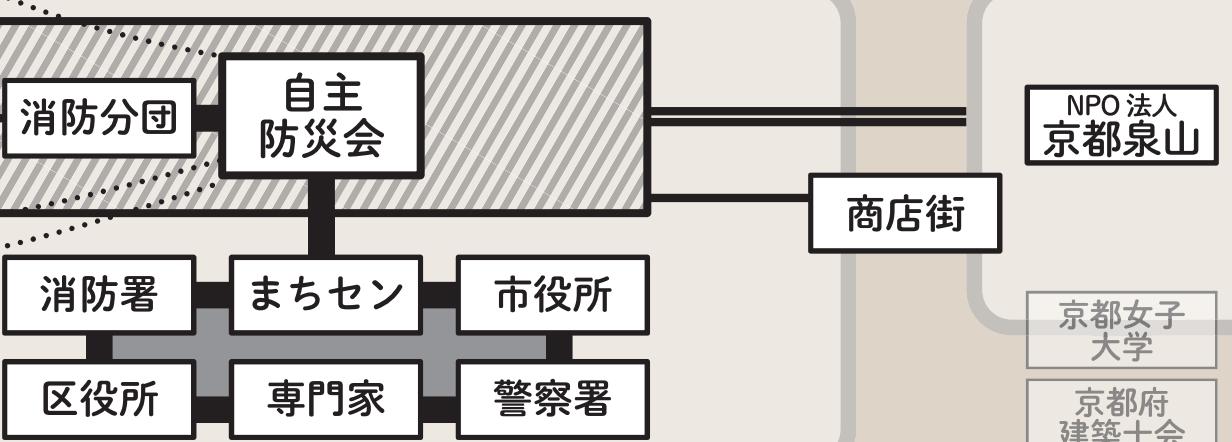
## 「防災まちづくり」を進める ネットワークづくり

- ・住民、各町との連携サポート
- ・学区内の各種団体等との連携
- ・行政や専門家等との連携

## 防災まちづくりチーム

## 「防災まちづくり」を進める 具体的な整備の検討・実践

- ・各町と連携した、学区全体の情報把握
- ・情報を基にした改善や整備の実行  
(行政、関連団体と連携)



# 4-6 坂のまち今熊野の防災まちづくりの年間の流れ

一人ひとり

町単位

学区単位

3  
47

身の回りの防災点検期間

避難経路の安全確認期間

4 5 6 7 8 9

- 身の回りの防災点検・期間
- 防災上気になる点があれば報告する。
- 空き家活用、支援制度を検討したい時は相談する。
- 自分の家や周辺の点検・管理を行う。
- 自分の町の消防実験会の日程を確認し参加する。

- 地域の集合場所、避難ルート、危険箇所を確認する。
- 防災上気になる点があれば報告する。

※期間以外も隨時相談できます。

## 点検と管理 + 相談

## 避難の想定

## 交流と学び

- 自分の町の消防実験会では、当曰意見収集を行う。
- 前年度の防災部長と一緒に自分の町の点検を行う。

- 助成制度等の情報を町内で共有する。
- 空き家活用や支援制度利用の希望を町内で募る。

- 町内の意見を集約し、研修会で報告する。
- 研修会に参加し、防災について学ぶ。

- 総合防災訓練事前説明会に参加し、報告する。
- 地域の集合場所、避難ルート、危険箇所を確認する。
- 総合防災訓練では災害時を想定した誘導を行う。

## 引継ぎ

## 町内状況の把握

## 避難の想定 + 町内誘導

- 防災まちづくりの取組や助成制度を発信する。
- 空き家活用や支援制度利用の希望を募る。

- 学区内の声を集約する。

- 行政等、関係する支援団体と相談する。
- 学区の対策を検討する。

- 学区の対策を検討する。
- 行政等、関係する支援団体と相談する。
- 学区の対策を検討する。

## 情報発信 + 地域ニーズの募集

## 地域状況の把握 + 対策の検討

自主防災会  
総会

防災部長  
研修会

地蔵盆  
総合防災訓練  
事前説明会  
商店街の祭り  
夏祭り

総合防災訓練  
地蔵盆  
総合防災訓練  
事前説明会  
商店街の祭り  
夏祭り

4 5 6 7 8 9

将来像へ向けたこれからの中年

- 次年度の防災部長への引継ぎ（4月）の準備をする。

## 引継ぎ準備

- 次年度の取組を検討する。

## 次年度検討

交流しながら  
防災を学ぼう！期間

10 11 12 1 2 3

- 整備対象になる場合、町や学区の取組に協力する。

## 整備協力

- 対策を進めるにあたり、町内の調整等協力する。

## 整備協力

- 学区の対策を隨時進める。

### 交流と学びの 機会づくり

要望が多かった「交流や学びの機会」。住民の皆さんとの協力が多いと、それだけできることができます。企画・運営、広報など、単発でもいいので、ぜひ皆さんの「やってみたい！」と一緒に実現していきましょう。

企画  
案

- 防災オンライン講座
- 防災グッズ見本市
- 最新の非常食・試食会
- 坂のまちマラソン
- 防災ナイトキャンプ
- 防災まちづくり研修会（今熊野検定）
- 空き家相談会

※企画例 / 年に1企画程度開催予定

## 個別の改善への対応・整備

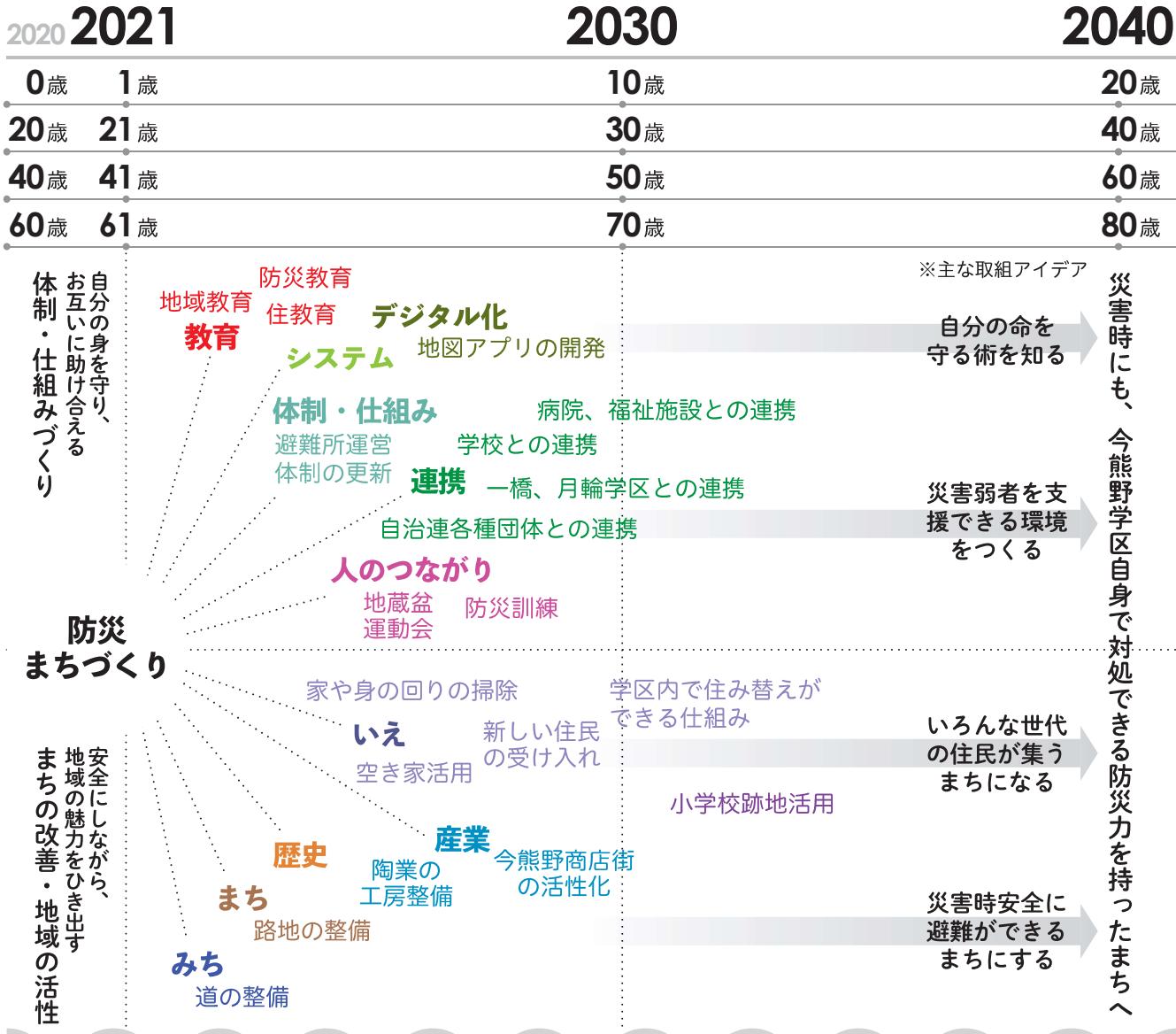
※期間以外も適宜対応します。

▲運動会

10 11 12 1 2 3 4

# 4-7 坂のまち今熊野の 将来像へ向けたこれからの20年

防災まちづくりをきっかけに、日々の地域活動や、今熊野学区がより暮らしやすくなる取組を積み重ね、今後起こりうる災害時にも、地域で対処できる防災力を持ったまちを目指していきます。



今後想定される地震例：南海トラフ地震（最大震度6弱）、花折断層地震（最大震度7）

想定外と言われた東日本大震災よりも大きな被害をもたらす「南海トラフ地震」が高い確率で発生すると言われています。その時、今熊野で何が起きるか想像したことはありますか？

今熊野は、震度6弱～5強程度の揺れに見舞われ、家屋被害や負傷者がいるほか、津波により海岸部の発電所等が被災し、長期的に停電や断水が発生すると想定されます。しかし、津波により被災した都市への支援が優先され、支援を受けるどころか働き手も物資もなく、被災しながらも厳しい時間を過ごすことになる可能性もあります。



そんな地震が20～30年後に起きます。

いま、東山泉小中学校に通う子どもたちが、新たな生活を築き社会を支え、

いま、産声をあげた子が、成人し新たな時代を切り拓こうとしている頃です。

私たちは、残された20年余りで、今熊野の子どもたちに何を伝えるべきでしょうか。

始めましょう、10年後、20年後を見据えた防災まちづくり。